

第86の山登頂記

今回(6月10日)は、スケジュールのダブっていた山口県交響楽団演奏会を振って、地元山の会の定期登山で、**桂木山(標高702M)**に登ってきました。

今回の参加者9名(男4、女5)が、公民館に8時半集合。2台の車に分乗し、一路、秋吉台の北部にある登山口(駐車場)へ。9時半ごろ到着。いつもの通り、思い通りの装備と準備運動、恒例の差入れバナナを頂き、記念撮影後、10時頃登山開始。

登山口からは広いセメントの道です。それが絶える付近は、あちこちにシイタケ原木があり、栽培地の様子。今はシイタケは皆無ですが、商売で植えていたのでしょう。小さい流れに沿って平坦な道を辿ります。しかし山の案内書に書いてあった秋芳大滝はありません。ひょっとして駐車場に入る前にあった白糸の滝のことか。仲間に言われて高度計をチェックすると、高さ300M。頂上まであと400M(案内版があり、「ようこそ、桂木山、702m、頂上まで、1:30分」)。続けて杉木立の間の道を登って行きます。足元は、両側の草などが道に覆いかぶさるようで、足で払うがごとくして進む。スパッツを付けて来て良かった。せせらぎは登山道と幾つか交差しており、川の中の石を踏み、用心しながら越えて行く。30分弱登ったところに、ちょっとした広場があり休憩。

更に登っていくが、このコースは水分が豊富なようで、その生育条件にあうのか、「シダ」(※)の葉が大きく艶も良い。小川もあるし、数日前の雨も影響してか、滑るようなところもあって、道は何時までも湿っぽい。苔が木に巻きついているところもあった。途中、倒木が道を塞いでいたりして、登山者の少ない、所轄の機関の管理もいまいちの山と感じた。

そのうち、横木のある道となった。登りが急になったということでしょう。それでも横木の高さが丁度コンパスに合っていて順調。しばらくして横木が無くなったが、再び横木再現。先ほどの横木は、丸太2本を縦に積んだものであったが、今度は縦に3本。コンパスに無理があり、一段ごとに「よいしょ！」が必要な高さ。

しばらく登ると、少し広場があり休憩。一人2個宛ての差入れの冷たいゼリーが美味しい。

高度計をチェックすると、570M。まだ、130~140M残。今日の登り400Mの6~7割を登った勘定。

ちょっと行くと、頂上まで10分と言う標識あり。我らメンバーではもっと掛かるだろうと思いつつ横木のある道を登る。途中で横木を雛段にしてそれぞれに座って休憩。

12時前(結局、約2時間で)、遂に頂上到着。頂上付近には思いがけず、アヤメ(or かきつばた、or しょうぶ)が。(※)

山の案内記には、「頂上から見晴らし良好、秋吉台が目前に広がる」とあったが、残念ながら、目前には視界を遮るように木々が茂っており、視界が広がらない。我がグループより少し遅れて頂上に着いた、広島から見えた御家族(両親と若いお嬢さん)も残念がっていた。近くにある避難小屋らしいコンクリートの建屋の上に登って、何とか視界が少し広がったが、それでも今回は、少し霞んで展望は良くない。

それが終わると、頂上の2基の石作りの妙見宮のそばで、ランチ開始。ちょっと硬目だったが、ビールの肴に準備しておいたするめのてんぷらを配る。旬のキュウリの漬物が廻って来る。2種類も。次いで登場の瓜の奈良漬も美味しい。もちろんビールを頂いて満悦。今回の登山では、結構大汗を掻いたので、余計に美味しい。時折吹き抜ける冷えた風が心地よい。ランチの半ば過ぎ、朝少し早起きして作った「蜜柑味のくるみ餅」を配る。何人かに美味しいとお褒めを頂いた。

妙見様に席をお借りしたお礼と皆の安全をお祈りし、13時頃に、もと来た道を下山開始。途中、これは何だろうの花(or 実)(※)を見たりして、14時半ごろ全員転ぶことも無く無事下山完了。その後、以前は登山道の途中に合った、前述の秋芳大滝(現在の名は白糸の滝となっている)(※)周辺を散策して帰途に着いた。

初夏の一日、大汗を掻いて登り、達成感を味わった。期待した秋吉台の眺望がいまいちだったのが残念でしたが。今回の歩数9690歩。

山口/古賀

